

## 巻頭言

20周年を、あらためて再スタートに

しかはま自然観察会のらえもん  
代表 古高 利男

2020年度はのらえもん20周年の記念すべき年であったのに、コロナ禍の1年で、わずかに5回だけの活動になってしまいました。その上、旧・現会員が一同に集い20周年をお祝いする会もできなくなったのです。

その分、これまでののらえもん活動をじっくりとふり返ることができました。

あらためて、当たり前のように毎月活動ができていたことの有り難さを痛感したのは私だけではないでしょう。

仲間が集まることで得られる安心感・刺激・共有感・あつれき、それらが自然との関わりのなかで整理・浄化され、相手を認めながら自分も前を向いて生きようとする力になってきたのではないのでしょうか。

ふり返ってみると、活動の中止が続いていた時は、少しもアイデアが浮かびませんでした。いつもなら、活動前の準備はとても楽しいことでした。森やダイソー（100円ショップ）に行ったり、室内で資料を調べたりします。プログラムを考え、子どもたちのメインの活動をどこでつくるかをイメージすることはとても充実していました。活動が終われば電車の中で「ふりかえりの感想」を読み、読みながら浮かんでくるのはプログラムの悪いところばかりです。だからこそ、「次は、こうしよう！」という意欲がわいてくるのでした。1年後の計画が、どんどん出来上がってきました。

この20年間ののらえもん活動は、「活動しながら考え、考えながら活動してきた」その積み重ねであったと思います。そして、1年に1回の活動でも毎年継続していくことで成果につながることを、子どもたちがはっきりとその姿を見せてくれたのでした。

20年を節目に、あらためて再スタートに立つ気持ちです。

のらえもんの活動の基本に掲げてある一つに「みんなで学び教え合う」というのがあります。このことを、もっともっとみんなで意識化し内容の深化を図りたいと思います。

大人でも、子どもたちの活動から教えられることが度々ありました。大人の既存概念を打ち破ってくれるのが、子どもたちの「失敗」です。子どもたちが一生懸命に行った行為を、大人の目線で判断すべきではないことを教えてくれました。失敗したことで、すでに子どもたちはたくさんのことを学んでいるのですから。大人も、失敗の連続でそれを修正しながらなんとか生き延びてきたのではないのでしょうか。

活動の場では、大人こそ率先して学ぼうとする姿勢が重要だと思うのです。そうして、大人だからできる子どもたちとの共有体験を増やしていきたいと思っています。

「山村と都市との双方向の交流」も、のらえもんが重視している姿勢です。それを深めるべく、これまでにみなかみ町藤原で8年間にわたり活動をしてきました。その後は、日光市土呂部で里山体験やキャンプ活動を続けています。

私たちの生活で最も必要なものは、食料や水・きれいな空気です。エネルギーでは電気・燃料です。そのどれも、都市にはありません。どれもが山村にあるのです。

山村は、食料を生産し水や空気を供給していることを忘れてはならないでしょう。都市は、それらすべてをいただいているだけなのです。スーパーに並んでいる食料品をみると、まるで都市が生産しているような錯覚を覚えます。が、それらの原料は、土を耕し太陽の恵みをいただいて育てたものばかりです。水は、森がはぐくみ飲料水として、または電気として利用させてもらっているのです。

都市は、消費だけです。山村は、生産を担っています。どちらも大切なのです。だからこそ、都市生活者には、生産の現場をみる必要があります。

のらえもんが田んぼ体験活動を続けている意図も、そこにあります。毎日食べているお米がどのように作られているか田植えや稲刈りで体験すると、お米に対する慈しみが湧いてくるのではないのでしょうか。それはお友だちへの配慮につながるのではないのでしょうか。

都市生活者の方が上だ・生活しやすい・儲かるというという価値観を少し低くして、山村もとても重要なのだという考えになってくれればよいと思います。都市と山村は同じように大切なパートナーだということを、里山体験活動で少しでも学んで欲しいと願っています。

また、コロナ禍の中の「新しい生活」とは、リモートワークすることだけではなく、里山の価値に気づく・見つけることでもあるのではないのでしょうか。

あらためて、この二つの基本姿勢に近づくよう、「自分の足で・目で・耳で・心で、体全体を震わせながら自然と仲間とに向き合う」（佐島群巳）活動を続けていきたいと思っています。そうして、未来を担う子どもたちには、「人間として必要な感性と認識力、表現力を総合的に培ってもらい、人と人とがかかわる社会性をも豊に育んで」（佐島群巳）くれることを、心から願っています。

最後になりましたが、会員の皆様に支えられ、コロナ禍ではありましたが5回も活動をできた事に対し、深く感謝申し上げます。この活動によって、コロナ禍の中の活動の仕方や今後の活動の在り方などを深めることができました。

## 2020年度 活動報告一覧

回	実施日	活動内容	場所	参加者
1	4月 4 (土) 11時～15時	春の生き物観察と桜見物 カブトムシの幼虫配布 新入生紹介、青空の下で遊ぼう 昼食持参	都市農業公園	中止
2	5月 10 (日)	田植え体験 11回目 イチゴ狩り カイコの卵配布と紙芝居 ビール工場見学	宅間農園 アサヒビール 守谷工場 バス利用	中止
3	6月6～7日	里山の恵み・・・ワラビ採り 日光茅ボッチとの連携	土呂部	中止
4	6月20 (土)	化石探し 2回目 講師：下村 庸三	鹿浜五色桜小 図工室	中止
5	7月18～2お日 2泊3日	キャンプ体験 11回目 ホタル鑑賞、魚つかみ、 キャンプファイヤー、 里山散策	土呂部キャン プ場（ドロブ ックル）	中止
6	8月29 (土)	ハゼを釣ろう 13回目 潮の満ち引き観察 釣果 21尾 講師：福藤 恭司	都市農業公園 荒川河川敷	大 13 中 1 小 6 幼 1 計 21
7	9月 6 (日)	稲刈り体験 11回目 田んぼ遊び、虫取り ビール工場見学	宅間農園 キリンビール 取手工場	中止
8	10月10～11日 1泊2日	里山の恵み・・・茅刈り体験	土呂部	中止
9	11月 7 (土) 11時30分～ 12時30分	新米の販売 田んぼに感謝を込めて 販売者：宅間農園 合計 508, 4kg	いきいき館の 駐車場	協力者 会員30
10	11月 7 (土) 14時00分～ 16時00分	木の葉の版画づくり 1回目 初めての挑戦！	都市農業公園	大 9 小 6 計 15

1 1	1 2月 5日 (土)	「サケの一生」の紙芝居 受精卵は入手できず 冬の生き物観察	都市農業公園	大 7 小 6 計 13
1 2	1 2月 26 (土) 1 3時 30分～ 1 6時 30分	しめ縄づくり 稲刈りのわらを使って	鹿浜五色桜小 図工室	大 11 中 1 小 5 計 17
1 3	1月 9～10日 1泊2日	スキー体験13回目 ・ スノボに挑戦 ・ 冬の花火、星座観察	菅平ダボスス キー場 菅平プリンス ホテル	中止
1 4	2月 6 (土) 1 4時～1 6時	押し花遊び 4回目 はがき作り、テーブルクロス 作り	鹿浜五色桜小 図工室	中止
1 5	2月 20～21日 1泊2日	土呂部のごちそう 5回目 雪の里山体験 かんじき体験、ソリ遊び メイプルウォーター採取 日光茅ボッチの会と連携	日光市栗山町 土呂部  民宿：水芭蕉	中止
1 6	3月 6日 (土)	梅見物と早春の生き物観察 野菜漢字書きゲーム	都市農業公園 荒川河川敷	中止

参加者合計 大 人 40  
 大学生 0  
 高校生 0  
 中学生 2  
 小学生 23  
 幼 児 1  
 合 計 66

\* 生物教材の配布

次のような生物教材を、希望する小学校・保育園・幼稚園に配布しました。

○ カブト虫の幼虫

○ カイコの卵

●サケの受精卵（本年度も、サケ遡上激減のため、受精卵を入手できませんでした）